

中野区立第二中学校学校だより

若葉

第249号



令和5年3月20日
第74回「卒業式」
令和4年度 第13号
発行者：校長 曾我 竜也

令和4年度第74回 卒業式

校庭の生徒通門の横、神田川沿いに植樹された「鬱金（ウコン）桜」、別名は「浅黄桜」が開花の時を待っています。江戸時代依然からある栽培品種で荒川堤で栽培されていたサトザクラの一つで、別名にもあるように、淡黄緑色の花びらが、ウコンという植物の茎系を使って染めた色（鬱金色）に似ているからこの名が付いたと言われています。あと少しで満開になると思いますので、是非一度ご覧ください。花言葉は「心の平安」だそうです。さて、そんな春の訪れと共に、第二中学校第74期卒業生113名が本校を巣立っていきました。コロナ禍に翻弄された3年間でしたが、彼らの表情には笑顔と希望が満ちあふれていました。進む道は様々ですが、自分が選んだ場所で、精一杯努力し、自らの力で新たな道を切り開いていくことを期待しています。

以下に、在校生による「送る言葉」、113名の卒業生の想いが託された、卒業生代表による「門出の言葉」を示します。

「送る言葉」 在校生代表 阿部 心杏

神田川の水面にやわらかな日差しがきらめき、春の訪れが感じられるこの良き日に、卒業生のみなさまがご卒業を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルスが流行し約3年。私たちの学校生活は、常にマスクに覆われた、暗いものであったかも知れません。しかし、その暗闇に光を灯してくれたのは、ほかならぬ3年生のみなさんでした。

みなさんの中学校生活は、校庭で行われた入学式から始まり、数々の行事が中止や縮小、変更を余儀なくされました。不安や怒り、悔しきや虚しさ。さまざまな感情と共に、我慢の中で過ごしてきた先輩方の姿を私たちは知っています。でも一方で、そんな中でもいつも校舎に響いていたのは、にぎやかで、明るくて、楽しそうな声。それは決してマスクでは覆い隠すことのできない、笑顔とともにある、高らかな笑い声でした。

先輩方が私たちに示してくれたものは、「道」です。

3年ぶりに全校一斉に行うことのできた運動会・文化発表会では、初めてにもかかわらず、先輩方は堂々とした姿を私たちに見せてくれました。その有様は、私たちにまた新たな中学生としての進むべき道を示してくれたように思います。

私たちがこうして、再開された行事に取り組めたり、日常に戻りつつある学校生活を過ごせたりしているのは、先輩方の、3年間の粘り強く努力し、礎を築いてくださったからに他なりません。コロナという前例のない道を進んできた先輩たちが、後に続く私たちを導いてくださったのだと、心から感じています。

さて、ここで、いつも伝えられていなかった言葉、今日はしっかり伝えたいと思います。

「先輩方、いつもありがとうございました。」

辛い時期も多くあったと思いますが、そんな中でも、笑顔を忘れず乗り越えてきた先輩方をみて、私たちが悔いなく学校生活を送ろうと勇気をもらいました。

そんな先輩方に、在校生一同からも「感謝」という言葉を贈りたいと思います。私のように、先輩方の存在に救われ、お礼を言いたい在校生が、きっとたくさんいることと思います。

みなさんの卒業は別れではなく始まりです。

本当は、先輩方ともっとたくさん思い出をつくり、たくさんのことを学びたかったです。ですが、数少ない先輩方との思い出は、私たち後輩にとっての唯一無二の思い出となりました。この思い出を胸に、私たちはこれからも前を向き進んでいきます。

これからも先輩方には、たくさん大きな試練が待ち受けているのだと思います。ですが、この3年間を乗り越えた先輩方なら、きっと大丈夫だと信じています。どうか自分自身を大事にして、輝かしい未来を切り開いていってください。

最後になりましたが、先輩方のご健康と益々のご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

「門出の言葉」 卒業生代表挨拶 3年A組 坂口 結香さん

在校生のみなさん

私たち卒業生から「前進」という言葉を贈らせていただきます。

3年前にコロナウイルスが流行し始めてから今まで、何かと制限の多い生活を送ってきたことと思います。行事をやるにしても例年通りとはいかず、悔しい思いもたくさんしてきたと思います。

ですが今、ようやく日常が取り戻されようとしています。我慢が多かった時期に頭の中で考えていた今をより良くするためには、どうしたらよいかという、さまざまな提案を実行していくときです。

みなさんが、卒業するとき、3年間やりたいことはすべてやったと、胸を張って言えるように仲間とともに良い思い出をたくさん作ってください。そして、一人だけで進んでいるのではなく、支えてくれるたくさんの仲間といっしょに進んでいることを忘れないでください。良い伝統は残しつつ、新しいことにもどんどん挑戦して、より良い二中を作ってくれることを信じて、今日、みなさんにバトンを渡します。

教職員の方々

3年間、本当にお世話になりました。勉強や委員会、部活動など、私たちの日々の生活や活動にひたむきに誠実に、向き合ってください感謝しています。ありがとうございました。

いろいろな行事の際には、企画から運営まで、私たちの活動を、愛情を込めて、陰で支えてくださいましたね。そのおかげで、私たちは、この二中に新たな伝統を残し、後輩たちにつなぐことができました。

困難に直面したとき、的確なアドバイスを下さり、とても心強かったこと、私たちは忘れません。そして、みんなが不安になっていた受験期にも、いろいろな方法で応援してください、そのおかげで、最後まで頑張ることができました。

私たちを優しく見守り、こんなにも成長させて下さり、本当にありがとうございました。

私たちの門出をお祝いして下さったご来賓の皆様、どんな時も正しい方向へ導いて下さった先生方学校の清潔を保ち、勉強や部活動に必要なものを揃えて下さった主事さん方

いつも美味しく栄養のバランスを考えて給食をつくって下さった栄養士さん、調理師さん。

そして、いつも暖かく見守り、ここまで育てて下さった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

今日、いっしょに卒業するみんなへ

入学当初は、顔も合わせる事ができず、もどかしい日々だったことを、今でも覚えています。

でも、やっと出会えてからの日々で、みんなの個性豊かなたくさんの良い面を、私は知ることができました。そして、やっと行うことができた様々な行事を通して、みんなとの仲を深められたこと、

それは、私の一生の思い出です。

でも、これまでの当たり前に思っていた日常が、明日からは、なくなってしまうですね。

とてもさみしい気持ちでいっぱいです。みんなも同じ気持ちだと思います。

もちろん、つらいこともあったけど、大切な3年間を、この二中で、この仲間と過ごせたことが本当にうれしかったです。

みんな・・・たくさんの”幸せな思い出”をありがとう。

今日で私たちは卒業します。いよいよ大人への第一歩を踏み出す時が来ました。時は待つてはくれません。

「なりたい自分になる」ために、今まで以上に険しい道を進んでいくこととなりますが、この二中で学んだことを忘れず、

”群青”の空でつながっている、この仲間といっしょに乗り越えていくことを約束します。

私たち113名が、この地球に生まれ、この二中で出会い、3年間をともに過ごしたこと、これを”奇跡”と呼ばずに、何と呼ぶのでしょうか。

みんなで作った大切な大切な思い出を、しっかりと心に刻み、私たちは進んでいこう

この仲間と歌う最後の歌・・・「旅立ちの日に」

みんなの決意と覚悟が、この会場に集うすべての人に伝わるように

3年間の思いを込めて、さあ みんなで歌おう。

いま、別れのとき 飛び立とう

いつか、また、会えることを 信じて

卒業生の歌 「群青」 生徒代表挨拶 3年C組 後藤 慶さん

日差しが 春の訪れを感じさせる 季節となりました。桜の花が咲き始めた 今日、ぼくたちは卒業し、それぞれの未来へ歩み始めます。コロナウイルスの影響で、様々な行事に制限がかかってきた学校生活でしたが、こうして無事に 卒業の日を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

振り返ってみると、3年間は長いようで、あっという間でした。3年前の春、ぼくたちはマスクをつけ、周囲とも距離を取りながら、校庭で入学式を行いました。まだ、着慣れていない制服を着て、みんなと会ったときはこれから始まる学校生活への期待と不安で胸がいっぱいでした。

入学後も、しばらくは休校、そして、時差登校を経て、通常の登校ができるようになったのは 6月でした。その後も、運動会は学年別、合唱コンクールは中止、都内巡りも中止、一年生の間は我慢することばかりでした。

2年生になると、ぼくたちは「先輩」と呼ばれるようになり、部活動をはじめ委員会など中心となって進めていくようになり、ぼくたちの中にも自覚が芽生え、行動が変化していきました。2年生になっても、ほとんどの行事が、コロナウイルスの影響を受けた中で、ぼくが特に印象に残っているのは、合唱コンクールです。

1年次に実施できず、右も左もわからない中、実行委員を中心に声掛けをしてくれたり、先輩方が、ぼくたちのために合唱を聞かせてくれたり、少しずつ練習への取り組み方が変わっていったことを覚えています。

本番は、どのクラスも思いを一つに、歌いることができ大きな達成感を得ることができたと思います。クラスや学年の団結力がより深まっていきました。

3年生になり、「中学校生活最後の」という言葉がいつもつくようになりました。

全学年での実施が実現したぼくたちの最後の運動会。ぼくは運動会実行委員長になりました。

何度も何度も仲間と意見を出し合い、より良いものを作ろうとみんなで頑張った日々を、今でも鮮明に覚えています。

今年から始まった大縄跳び。覚えていますか。

みんなで作戦を考え、教え合い、どのクラスもどんだんまとまっていきました。

そして、迎えた本番。

焦って引っかかってしまっても、みんなで声を出し、互いを励まし合い、誰一人諦めないでやりきったこと、忘れません。

3年ぶりに実施された大ムカデ。

思いを一つにしないと進めない競技。練習の時には たくさん転んだよね。

本番の競技では、ゴールしたクラスのみならず、すぐに縄をほどいて、まだゴールしていないクラスのもとに行き、学年のみんな全員で声を出して、ゴールを迎えたこと覚えていますか。

ぼくは、あのとき、この学年で本当に良かったなって心から思えました。

運動会が終わった後、たくさんの人たちから「ありがとう」「お疲れ様」って声をかけてもらい、幸せな気持ちで胸がいっぱいになりました。

そして、9月に行った修学旅行。

ぼくたちにとっては、最初で最後の宿泊行事となりました。

京都や奈良の神社やお寺は、古くからの歴史を実感できました。

何よりも楽しかったのは、友達との何気ない会話、いっしょに班行動したり、寝食を共にしてたくさんたたくさん笑ったことを、昨日のここのように覚えています。

ぼくたちは、この三年間を通して

「仲間の大切さ」「当たり前のできる有難さ」に気づくことができたと思います。学校に行けること、友達と会えること、それは、当たり前のことではなくて、実はとても幸せなことなんだということ、いろいろなことが「一期一会」なんだと思えるようになりました。

ぼくたちが歌う「群青」

12年前の東日本大震災後に作られたものです。震災によって離れ離れになってしまった子どもたちが、仲間を思い「群青の空が、みんなをつないでくれる」という思いを歌詞に込めたそうです。

ぼくたちも、今日、卒業したら、離れ離れになっていきます。でも、この空のどこかでつながっている。あたりまえが幸せと知った目を閉じれば群青に染まる。

きっとまた会おう、ぼくらの約束は消えやしない、群青の絆・・・

3年I組 「門出の言葉」 生徒代表 香柳 美羽さん

私には、3年間の中学校生活の中で思い出深い行事がたくさんあります。

1年生の時は、新型コロナウイルスの影響で多くの行事が中止や縮小になってしまいました。ただその中で特に思い出に残っている行事は、学年別に行われた運動会です。運動会は、通常の学級と交流できる数少ない行事です。私は、とても人見知りなので、友達になれるか不安で緊張していました。

ですが、通常の学級のみみんなが優しく話しかけてくれて、一気に不安や緊張が吹き飛び、とても嬉しかったです。また、全員リレーでは、授業に加え、昼休みにもバトンパスの練習をしました。

通常の学級の友達が、熱心に練習に付き合ってくれて「本番も絶対に成功させよう！」と決意しました。そして、運動会本番では、今までの練習の成果を発揮し、見事にバトンパスを成功させることができました。

2年生になると、できるようになった行事が増えました。その中でも、特に印象に残っている行事は、何といっても中学生になって初の宿泊学習で、高尾の森わくわくビレッジに行ったことです。友達と寝食を共にし、生活することで、学級内の結束がより強くなったような気がしました。

そして、3年生では、今まで中止になっていて、できなかった行事がたくさん復活しました。

まずは、調理実習が授業でできるようになったことで、二中I組伝統の「I組食堂」が復活しました。

I組食堂は、授業で身に付けた調理技術や接客スキルで保護者や地域の皆様を模擬店形式でおもてなしするI組の伝統行事です。I組食堂当日、私は、接客係をしました。来店して下さったお客様に注文を聞き、調理係にオーダーを伝えます。そして、完成した料理をお客様に届けました。

初めて会う方々ばかりで、とても緊張しましたが、常に笑顔を忘れずに接客しようと心掛けました。お客様からの「ありがとう」「美味しかったよ」という言葉で、もっと頑張ろうという気持ちになりました。

次に、スキー教室です。

スキー教室の目標は、「もう無理～！からの、あと一步を頑張ろう！」でした。ですが、私は、スキーをした経験がなかったので、「ちゃんと滑れるかなあ・・・」「転んだら痛そうだなあ・・・」「寒い嫌だなあ・・・」と不安に思っていました。実際にスキーをしてみると想像していた以上に難しく、全く上手に滑ることができず、すぐに諦めてしまいそうになりました。

でもその時、先生に、「スキー教室の目標を思い出して！」と声を掛けられ、折れそうになっている心を奮い立たせて練習を頑張りました。そのおかげで、最後にはリフトに乗ってゲレンデを滑って降りてこられるまでに上達しました。もう無理～！からのあと一步を頑張って練習したスキーは、最高に気持ちが良く、晴れやかな気分になりました。

私が進学する高校では、将来の仕事について勉強する授業が沢山あります。

私は迷わず福祉関係の仕事の勉強を選ぶつもりです。

この3年間、様々なことがめまぐるしく変わり、悔しいことも辛いこともたくさんありました。

その一方で、私たちは、色々な事に気が付き、成長してきました。

第二中学校で、多くの人達に支えられながら過ごした3年間に胸に、自分の夢に向かって頑張っていきます。

人生は「一期一会」

～ その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いである ～